

乳幼児の着衣調査

○光松佐和子* 近藤トシエ** 堀てる代*** 旗美代子** 佐野恂子
 (* 市邨学園短大, **名古屋女子文化短大, *** 岐阜聖徳学園大短大)

- 目的** 衣生活の多様化にともない、子供服も多種多様である。心身共に成長の著しい子供にとって、衣服は身体的、生理的に重要な役割を担うものである。特に乳幼児の衣服に関しては、衣服の選択がその母親を中心とする大人の手任せに委ねられていることが多いため、どのような衣服を着用しているか個人差が大きいと思われる。そこで本調査では、乳幼児の着用服種、服種組み合わせ、着衣枚数、衣服重量および衣服気候について調べ、着衣実態を把握し、検討を行った。
- 方法** 1998年11月、愛知県K町のC保育園において0歳から6歳までの男女園児102名について着衣調査を行った。調査項目は年齢、身長、体重、母親の年齢などの基本属性および着用服種、服種組み合わせ、着衣枚数、衣服重量、荷重分布、衣服気候である。衣服重量は大場式手秤(200g、500g、1kg)を使用し、衣服気候はVAISARA社製温湿度センサーを使用して測定した。
- 結果**
- 服種および服種組み合わせについては上衣、下衣とも男児より女児のほうが多数出現した。
 - 衣服重量については男児、女児とも700g/m²以上1200g/m²未満の範囲内で着用している場合が多かった。
 - 荷重分布については男児が狭い範囲であるのに対し、女児は幅広い範囲で着用していた。